

アースサポート株式会社

世界一の高齢化率を誇る日本は、長年にわたり、高齢者介護サービスにおける豊富な経験を蓄積してきた。一方、中国の高齢化の急速な進展に伴い、数多くの日本の介護サービス企業が中国で事業を展開している。JETRO 大連事務所は 2022 年下半期、中国で高齢者介護サービスを展開している日系企業やその中国側パートナー企業にインタビューを行った。

7 回目は、アースサポートの中国子会社、愛志万（上海）健康管理有限公司の彭雨総経理に話を聞いた（2023 年 1 月）。

<強みは地域密着型の介護サービス>

（問）：アースサポートの日本国内事業及び海外事業について。

（答）：アースサポートは 1992 年に設立。日本国内で各種介護サービス拠点を約 500 ヶ所設置しており、訪問入浴、デイサービス、訪問介護、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の運営、福祉用具の販売レンタルサービスなど約 30 種類のサービスを提供している。当社の強みは地域密着型の介護サービスであり、同分野のサービス拠点が比較的多い。

海外では中国の大陸地域と台湾で展開している。台湾では現地の長期介護保険制度を活用した訪問介護サービスを主として提供している。



（アースサポートの日本国内の介護施設）



（アースサポートの訪問入浴サービス）

<2016 年に上海でデイサービス施設を開設>

（問）：中国での事業展開について。

（答）：2010 年頃から中国の高齢者サービス市場を視察した。当時の中国の状況は 1970 年代の日

本に類似していた。社会福祉法人や政府が運営する施設が多く、介護施設で提供するサービス内容が単一でサービス水準が低かった。かつ、デイサービスや訪問介護サービスはほとんど展開されていなかった。一方で、中国の高齢化率は年々上昇する傾向となっており、当社が日本で蓄積してきた技術や経験を中国で活用できるチャンスがあると判断した。

中国政府は 2013 年に「高齢者サービス産業の発展加速に関する若干の意見」を発表。それまでは外資系企業の高齢者サービス業への参入が厳しく規制されたが、同政策の発表を機に同規制が多少緩和された。アースサポートは 2016 年、旺旺グループの傘下にある神旺ホールディングスと合併会社を設立し、デイサービス、訪問介護、福祉用具のレンタル、バリアフリー改造などの地域密着型サービスを提供してきた。2022 年 7 月に合併先との持株変更を行い、アースサポートの 100% 出資に変わっている。



(上海のデイサービス施設)

<デイサービスに施設に対する認知度に日中間で相違あり>

(問) : デイサービス施設を設立した理由。

(答) : 中国市場に参入した際、展開すべき介護サービスの種目について色々と検討した結果、当社の強みと中国の当時の実情に合わせて、デイサービス施設の設立を決めた。日中両国の高齢者に共通することは、長年住み慣れた自宅を離れたがらないこと、子供に介護の負担をかけたくないこととみている。そのため、高齢者の住居に近いところに設置するデイサービス施設は、こうした高齢者のニーズに応えることができると考えた。

日本では一般的に、デイサービス施設のサービス内容が知られている。即ち、高齢者の自立支援を助けるために、身体機能回復トレーニング、転倒予防トレーニング、認知症予防ケア、栄養管理、入浴介助などを行っていることがよく知られている。一方で、中国でデイサービス施設を開設し始め

た当初は、当時の中国では類似したサービス形態がないため、高齢者やその家族側の認知度が低く、入居者数が非常に少なかったのが課題だった。

当時、中国の各地方政府もデイサービス施設の開設を進めていたが、日本の施設の位置づけと異なり、主に健常な高齢者が無料でレジャー活動を楽しむ市民センターのような位置づけだった。当社の施設もデイサービス施設の名前だったため、無料のレジャー施設と勘違いする人が多く、開業直後は宣伝活動に大いに注力した。



(上海のデイサービス施設)

<専門的なデイサービスに対するニーズが増加>

(問) : 中国における日本式のデイサービスの展開状況について。

(答) : 中国では高齢者サービス業のここ数年の発展を通じて、専門的なデイサービスに対するニーズが増えてきている。当社のデイサービスを定期的にご利用している高齢者は20人を超えている。1日あたりの利用料金は100~300円で、決して安くはないが、当社の施設を利用した高齢者とその家族は、当社の利用者本位に基づくサービス理念とサービスの品質を高く評価している。

高齢者がデイサービスを利用する初期とその後高齢者に対するアセスメントを定期的に行い、その結果に基づいて各高齢者の短期、中期、長期のケアプランを制定して介護サービスを提供している。例えば、半身不随の高齢者に対し、多くの介護施設では高齢者の代わりに更衣介助をしているが、当社の施設では高齢者自身が片手で着脱するトレーニングを行い、自立して生活できるように支援している。高齢者が自立生活能力を戻し、より尊厳のある生活を送ることを支援するのが当社の介護サービスの趣旨である。

中国企業が運営しているデイサービス施設には「公設民営」(政府が設置、企業が運営)手法を採用しているケースが多いが、当社では理想的な物件を見つけられなかったため、その手法を採用し

ていない。自社で家賃を負担しているが、コストに占める家賃の割合は大きい。



(スタッフによるリハビリの実施風景)

<上海市の長期介護保険適用施設に選定>

(問) : 上海市の長期介護保険のメリット。

(答) : 当社の施設は 2018 年に上海市の長期介護保険の適用施設に選定された。同市政府が発表した 1 回目の介護保険適用施設の 1 社となる。上海市の長期介護保険は、介護施設のほか、訪問介護とデイサービスにも適用される。当社の施設が立地する徐匯区において、これまで約 800 人の高齢者が長期介護保険を活用して当社のサービスを受けている。

デイサービスを利用する場合、上海市の長期介護保険を活用すると、1 人あたりの月間補助金額は数百元から千元を若干超える程度である。デイサービスを利用する高齢者が同市の長期介護保険を申請する際にいくつかの条件があるが、介護レベルはその一つであり、2 級～4 級と判断された高齢者に限定される。しかし、当社のデイサービスの利用ニーズが高いのは要介護度が高い 4 級以上が多く、長期介護保険を利用できない問題がある。また、認知症と認定された高齢者も対象外であり、非常に残念である。

日本では 2000 年に介護保険制度が実施され、デイサービスを含む地域密着型介護サービスが大きく発展した。中国では 49 都市で長期介護保険が試行されており、各地での試行が着実に進むにつれて、サービス内容や支払い基準がさらに改善され、より多くの高齢者が同保険を活用できるようになることを期待している。



(上海市で福祉用具のレンタルサービスも展開)

<訪問入浴サービスの市場開拓の大きな壁は利用者の支払能力>

(問) : 訪問入浴サービスの展開状況について。

(答) : 中国において訪問入浴サービスはまだ広く展開されていない。最大の課題は費用負担をサポートする体制が整備されていない点にある。日本では介護保険から支払われるために、利用者の負担は高くない。しかし、中国では全額利用者負担の地域が大半であり、1回あたり400~500元の利用料が訪問入浴市場の急速な発展の妨げとなっている。

利用者がまだ少なく、高齢者の住居が分散しているため、訪問入浴に必要な設備代や人件費を抑えることが難しい。従って、費用負担の問題を解決しない限り、中国における訪問入浴の普及は難しいと考える。

一方、今後は訪問入浴に対する市場のニーズが高まっていくに違いない。同サービスは高い技術力とリスク防止能力が求められており、安定したサービスの品質を実現するためには、豊富な技術経験が必要となる。

<今後の発展展望>

(問) : 今後の発展展望について。

(答) : デイサービスや訪問介護を含む地域密着型介護サービスは、高齢者サービス業が目指す道であることは間違いない。しかし、高齢者やその家族の介護サービス料の支払能力が課題であり、まだ躍進的な発展を遂げていない。当社は今後も地域密着型介護サービスに注力していく方針だ。継続的に事業経験を蓄積していき、技術とサービスを磨き続けることで、更なる成長を遂げていく

いと考えている。長期介護保険制度が試行されている地域では、地域密着型介護サービスが対象外になっている地域もあるが、今後はそのような地域でも適用される日がきっと来ると信じている。

また、高齢者によく現れる栄養のアンバランス、口腔ケア、認知症ケア、心のケアなどの問題については、社会の注目が薄いところだが、同分野も発展のポテンシャルがあるとみている。当社ですでに同分野のサービスに着手しており、今後も注力していく。

市場開拓地域については、上海のほか、他地域のパートナーとの提携も模索している。中国で高齢者産業は今後伸びる業種として注目され、参入する中国企業が多いが、サービスの質を重視し、着実に取り組む企業だけが成功すると考えている。当社は同じ理念を持つパートナーとの提携を望んでいる。当社が介護サービスの技術を提供し、パートナー側が資金を含む関連のリソースを提供する形での提携が望ましく、同じ方向に向かってともに歩んでいけるパートナーを希望している。